

2005 年 (平成 17 年) 9 月 1 日木曜日 (毎月 1 日発行) 1 部 50 円 (消費税込・送料別) 発行所/天台宗出版室 発行人/出版室長 工藤 秀和 〒520-0113 大津市坂本4-6-2 天台宗務庁内 電話 077-579-0022 (代) Eメール/T-Press@tendai.or.jp

総登山・総授戒 あなたのの中に仏に会いに

極微 ごくみ 赤十字のマークは、発案者の出身地スイス国旗を元にして... 日本人からすれば、なんとも厳格な宗教観に思えるが、イスラムを理解する上で忘れてはならない視点がある。イスラム圏では、日常凡てを宗教が覆っていることだ。宗教性を離れた日常は考えられない、と言うことを日本人は肝に銘じて付き合わねばならない。

「比叡山宗教サミット18周年」世界平和祈りの集いを開催

「比叡山宗教サミット十八周年世界平和祈りの集い」が、八月三・四日、ウエスティンホテル京都と比叡山延暦寺を会場に開催された。今回のテーマは「平和の架け橋を求めて アジア仏教者との対話集会」で、国内の仏教者に加えて、海外からは八カ国の仏教代表者と二カ国からイスラム、キリスト教の代表者を招いて開催された。主催は天台宗と延暦寺および天台宗国際平和宗教協力協会。

アジアの仏教者との対話

二〇〇二年に起きた9・11同時多発テロや、今年引き起こされたロンドン同時多発テロ、あるいは中東やイラクなど、イスラム教対キリスト教という構図で、憎悪に根ざしたテロや武力行為による大量虐殺が相次いでいる。これまでに、異なった宗教同士の対話によって世界平和を目指してきた天台宗にとって、今回のサミットは「仏教が平和のために何ができるか」を全面的に打ち出した集会となった。

壇上に並ぶ渡邊恵進天台座主視下と、海外からの招請者たち



今年第40回を迎えた天台青少年比叡山の集い



三日は、開会式典に続いて瀬戸内寂聴師とタイ国のパイサーン・ウォンボラビシット国民和解委員会委員がそれぞれ

「天台青少年比叡山の集い」が八月三日より五日まで、三日間の日程で開催され、本年は第四十回を数えた。この四十年間で参加者は延べ一万人以上に達し、中には親子二代で参加した人もいた。また、リーダーを務めた僧侶の中には、天台宗の要職に就いている人もあり、歴史を感じさせる。時代の流れと共に、「平和の祈りの集い」への参加など、研修会の内容も変わってきたが、今後も、発展、継続が望まれている。(七面に詳報)

法の灯

日本人の葬儀観が変わってきた 神奈川教区布教師会顧問 須藤 大元

最近、人々の葬儀に対する考え方が変わってきたといわれます。北海道の市民グループが二〇〇四年十月に実施した葬儀に関するアンケートによれば①葬儀金額は？ 百万円以内が七四％。二百万円以内が一％。②希望する宗派は？ 仏教宗派が三三％。無宗教が二八％。仏教系で宗派にこだわらずが八％。神式が三％。③あなたの死後あなたの骨をどうしたいか？ 墓地に二九％。共同(合れ記念講演を行った。四日は「紛争和解の為に仏教者は何ができるのか」をテーマとしてシンポジウムが行われ、日本を含む六カ国の代表者が白熱した意見交換を行った。この中で奈良康明駒澤大学総長は「仏教は周りに起こっている様々な悲惨な状況、困難を自分の心の痛みとして受け止め、アクションを起こす姿勢が必要。それがあって草の根的な話し合いが意味を持つ」と指摘し、イスラム代表として出席したカマル・ハッサンマレーシア国際イスラーム大学学長は「本来は努力などの意味に使われるジハードという言葉が狂信者によって戦いの意味に用いられ、マスコミによって聖戦などの意味で広められている」と、メディアと宗教者との対話の重要性を訴えた。同日午後は、会場を比叡山に移し約八百五十人が出席して世界平和の実現を共に祈った。渡邊恵進天台座主視下は平和祈願文の中で「死亡や負傷、そして逃げ惑い、飢えや病に苦しむ人々のニュースにも、その多さの故に無感動にやり過ごす風潮すら生じかねない」と憂慮すると共に、紛争外の地において「対岸の火事」のごとく無関心でいる人々を強く批判した。また、今回新たに発表された比叡山メッセージでは「一人ひとりの心に平和の光を染くことを働きかけ、世界を掩つているテロや核兵器の脅威に共に対処してゆかなければならない」と強調、更に「われわれは仏教のみが平和の架け橋になるのではなく、すべての宗教がその根本義に立ち返ったとき、平和の架け橋であることを再認識し、更なる対話を広げていく」と宣言した。(四・五面に特集)

葬式自体も家族葬、密葬がふえており、通夜や告別式をしないで火葬だけで済ませる人もいます。戒名も不要、香典返しに面倒だから、香典もお断りという具合です。亡くなった方が、一生をかけて結んできた人々のご縁を無視、否定するかのとき、このような行為が許されるのでしょうか。私たち僧侶は、通夜、葬儀では戒名の大切さや受戒の重要さを熱心に説くべきです。そのことによって参列者の人格を向上させることが、仏教の布教であると思えます。

鬼手仏心

わしや、知らん

出版室長 工藤 秀和



花想 風言

夏の季節、叡山に登る無動寺坂のふもとには、花盛りを迎えたネムノキがよく目立っている。

雨の日は、か細い小枝の先に十から二十個ほどついた花や葉にもたっぷりと雨水を含んでしまう。重くなった枝がしなやかに垂れ下がって、夏の山道をふさいでしまうのだ。

筆者も図鑑や書物のおかげでいまでこそ多少は植物のあれこれも知ったものの、少年時代には全く知識がなく、オジギソウが大きくなってネムノキになるものだ、とばかり思っていた。ちなみにオジギソウはブラジル原産の植物で、江戸時代に南蛮船で渡来した。手で触れるとただちに葉っぱがお辞儀する様子が珍しがられて、苗が鉢に仕立てられ、緑日の屋台などで売られていた。ネムノキは夜間になると葉が閉じてしまい、あたかも眠っているかのように見える。が花は夜間でも開いている。マメ科の落葉高木で、古くは万葉集の相聞歌

第18回 ネムノキ 福田徳行(文・写真)

に読まれ、男女の共寝を意味する合歓という漢字があてられた。林瓶臣の『日本釈名』を開くと「夕方、葉が眠るように閉じることからネプリノキ(眠之木)の義」とある。外国での呼び名を調べると、多数の雄しべが立っているように見えることからシルクツリー(絹の樹)と呼ばれているらしい。ネムノキといえば、芭蕉が奥の細道で詠んだ名句がある。

象潟や 雨に西施が ねぶの花

古代中国の呉の王が、国を傾けたという越王から贈られた中国四大美女のナンパワンの西施は、雨にけふるような風情をもつ婦人だったのか? ネムノキを前に、想像するだけに楽しいひとときでもある。

プロフィール

五二六年東京生まれ。十歳から二十一歳まで比叡山で小僧生活をして過した。元朝日新聞社記者。信越教区新潟部・徳法院住職。俗名 福田 徳郎。

突然の衆議院解散で、世間は選挙モード一色です。お盆で、檀家さんを回っておられますも「こんなことは初めてですね」という話題ばかりでした。

確かに、日本は曲がり角にあるようです。それで天台宗の碩学である大僧正に「先生、これから日本はどうなるのでしょうか?」と聞いてみました。そうしたら、その大僧正から「キミ、そんなことは、わしや知らん!」と一喝をくらってしまいました。

その時は(まあ、何と乱暴な。この人、ほんとに学者なんだらうか)と思うたものでしたが、すぐにその意味するところは「仏教は心の置き所を教えるものだ。その場、その場の政治や世の中の事象の解決方法を教えるものではない」といわれていることに理解が至りました。

延暦寺会館が竣工



会館には八月一日に、中村哲也画伯の大襖絵が大広間に奉納されており、同日披露された。また、ロビーには全日本書道連盟顧問の成瀬映山氏による伝教大師「御遺戒」も奉納されている。

救おうと信州に建立された広濟院、広拯院の御精神に倣って比叡山を訪れる人々の心のやすらぎとなるようにしたい」と述べた。その後、参列した来賓約五百人に会館の内部が披露され、大ホール「比叡」で披露宴が行われた。

自然に抱かれて精進料理



大ホール「比叡」

平成十五年十二月から始められた総本山比叡山延暦寺・「延暦寺会館」の建替え工事がこの程無事完了し、「眺望清逸の宿・延暦寺会館」としての竣工式が八月十七日に行われた。

竣工式典は、一階の仏間をしつらえた大広間で行われ、渡邊惠進天台座主親下導師による法楽が営まれた。森定慈芳延暦寺執行は「皆さまのご協力によって、このように素晴らしい会館に生まれ変わったことに篤く御礼申し上げます。伝教大師が旅人の難儀を

談話室

仏教の散歩道



ひろさちや

をわの支や/巻数。問かくち。ち多。な説幅いろ8。点かく広る。さ。様なすはてひ経。々視よくけ心。作家的や口受に書敷若社。作仏かり切持著の新潮社。

古代ギリシャのエペイロスの地にピュロス(前一九七〇前二七二)という王がいました。この王はイタリアに遠征することを考えていましたが、その遠征を思いとどまらせようと思つて家臣がこんなふうに言いました。

「王さま、イタリアに遠征してローマ人に勝ったら、次にはどうなさいますか?」
「次にはイタリア全土を征服する」
「その次は……?」
「その次はシチリアを征服する」
「そして、その次は?」

のんびりと働く

「リビアやカルタゴじゃな...」
「それらを全部征服し終わつたあとは、王さまはどうされるおつもりですか?」
「そのあとは暇ができる。そうする、ゆっくり宴会でも開いて楽しむことしよう」
そこで家臣が言いました。
「王さま、宴会をやつて楽しくやるのは、いま、ここでできることではありませんか。何も苦勞して戦争などやる必要はありませんよ」

その家臣の言葉に、ピュロス王が戦争を思いとどまつたかどうか、ちよつと忘れてしまひました。たぶんピュロス王は征服戦争をやつてのけたのでしよう。それはどちらでもいいのですが、この家臣の言葉は名言です。覚えておいてよいと思ひます。

われわれ現代日本人は、将来に備えてあくせくと働いています。多くのサラリーマンは残業につぐ残業で、家庭を犠牲にしています。ときには過勞死するありさまで。彼らに、「何のために、そんなにあくせくと働くのですか?」と問えば、きつと「定年退職後にのんびりと暮らすため」といった返事が返ってくるはず。それがサラリーマンの願望なんですよ。



(カット・伊藤 梓)



京都・青蓮院門跡 創建以来初めて御本尊御開帳 9/28 - 12/28

青蓮院門跡(東伏見慈覺門主)では、天台宗開宗二百年を記念して、九月二十八日から十二月二十八日まで「心に灯す光の曼荼羅」と題して御本尊を御開帳する。

度重なる戦禍によって消失したが、現在の御本尊は文禄五(一五九六)年に豊臣秀吉が寄進した。四百年を経て、落剥などの傷みが目立つようになつたため、同門跡では一年をかけて修復し、群青のバツクに金の御仏が輝く御本尊が甦つた。二メートル四方の大ききで、御開帳期間中は、本堂から震殿へ移してお祈りする。

今回の御開帳のテーマは「天変地異の鎮静」「国家の安泰」「皇室の安寧を祈る」の三つで、東伏見門主は「地に心を灯す光の曼荼羅」

震や津波から人々をお護り頂き、また世界各地の紛争終結を御仏に祈りたい。今年も天台宗開宗二百年の慶讃期間であると同時に、終戦六十年を迎える。皆さまの幸せを願うのはもちろん、これから日本がどうあるべきかという大きな問題をそれぞれの立場から考えてもらふ機会になればと思う。皇室と門跡寺院との関係は深く、歴史を大事にして各界の皆さまのご理解とご協力を得ながら円成したい。しっかりと御本尊様を拝みたい」と抱負を語る。

文化講座 **日本人のこころ(神と仏)と比叡山の行**

天台宗として、特別布教に力を注いでいる広島県において、十月から「日本人のこころ(神と仏)と比叡山の行」と題する文化講座が開講されることになった。

主催するのはNHK広島文化センターで講師は、菅原信海妙法院門跡門主、小林隆彰延暦寺学問所所長、掘澤祖門叡山学院院長、光永覚道千日回峰行大行満の四師。

受講申込 NHK広島文化センター 電話(082-242-1151)まで

受講料 6ヵ月11回 18,480円

開催日時 10月から毎月 第2、第4金曜日 13:00~15:00 第1回は10月14日

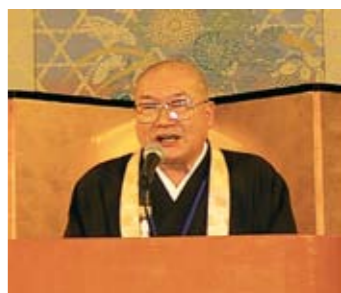
。記帳所も設けられる予定で「単に見物ではなく、お参りを頂く」と東伏見門主。梅原猛氏、日高敏隆氏、山折哲雄氏、藤本義一氏、千玄室氏、瀬戸内寂聴師、稲盛和夫氏を招いた特別講演会も行われる。また書道、華道、箏曲、舞、音楽、絵画の奉納、大茶会や、コンサート等々の多彩な催しもほぼ連日行われ、ライトアップ期間中には東伏見門主が京都の経済界、文化界で活躍中の名士と語り合う特別企画もある。

今年で十九回目を迎える「夜の特別拝観・ライトアップ」もこれまでの「幽玄」から、光の仏様にちなんで「御本尊様の光が溢れ出て、満たされ、その光が天空に向かって放たれていく」というイメージでセッティングされる。

仏教者は世界平和の為に何ができるか

諸宗教間対話の継続を再確認

十八周年を迎えた「比叡山宗教サミット世界平和祈りの集い」はアジアの仏教指導者を招いて、対話を行う集会となった。世界を憂慮させているテロや武力紛争の原因のひとつと指摘されるイスラム教対キリスト教の対立に「仏教は世界平和のために何ができるか」が話し合われた。今回のテーマのひとつである「平和の架け橋」については「仏教だけでなくすべての宗教がその根本義に立ち返ったときに平和の架け橋となる」（比叡山メッセージ）が再確認され、シンポジウムでは、更に相互理解を深めるために諸宗教間の対話を継続してゆくことや、世界の悲惨な現状に仏教が行動を起こす必要があることなどが提言された。



開会式で挨拶する西郊良光宗務総長

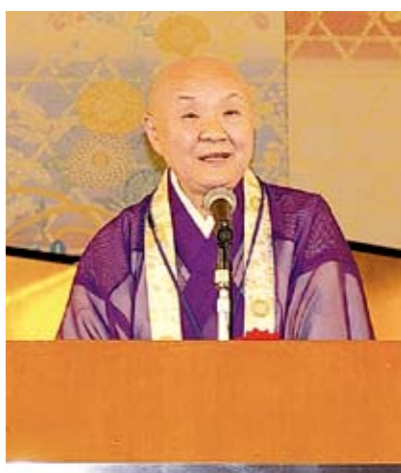
開会式・記念講演

八月三日にウエスティン都ホテル京都で行われた開会式典では、主催者の西郊良光天台宗宗務総長が開会を宣したあと、海外招請者の紹介が行われた。そして、小島敏雄文部科学副大臣、里見達人全日本仏教会理事長、パン・ワナ

メティー世界仏教徒連盟会長がそれぞれ祝辞を述べた。同日は、瀬戸内寂聴師が「無償の奉仕の力」と題して記念講演を行った。瀬戸内師は第一回の宗教サミットでマスコミ関係者が「祈るだけで平和がくるのか」と語ったことに触れ「自分だけの利益を祈っても、仏は聞き入れられない。しかし人の為に祈ることは聞

き届けられることを三十二年の出家生活で悟った。祈って平和は来るのか？今すぐは来なくても、必ずや来る。希望を忘れずに永遠の平和を祈ってゆきたい」と述べた。

続いてパイサーン・ウォンボラビシット師は「仏教者とは平和への媒介者である」と題して「一部の人が権力を握ることで、社会的、経済的格



「無償の奉仕の力」と題して講演を行う瀬戸内寂聴師



「仏教者とは平和への媒介者である」と題し講演を行うパイサーン・ウォンボラビシット師



記念講演を聞く、各教宗派の代表と一般参加者

比叡山宗教サミット
18th Anniversary

悲惨な状況に行動を

シンポジウム

四日の午前中は、「紛争と解の為に仏教者は何ができるのか」をテーマに、杉谷義純天台宗国際平和宗教協力協会

顧問をコーディネーターとして、六人の参加者によるシンポジウムが行われた。各人がそれぞれの意見を述べた後、コーディネーターの質問に答える形で進められ、メーダガマ・ナンダワンサ師は、ス

ランカ民族紛争のタミール人組織について「紛争は、平和的な対話を通して、お互いを尊敬し合うということのみによって解決することが出来る」と述べた。

レオニド・キシコフスキー WCRP 国際委員会実務副議長はボスニア戦争の悲劇に触れ「対話をする気がなかった人々を同じテーブルにつかせるには個人レベルの信頼と努力が必要である」と語った。

最後に杉谷コーディネーターは「十八年前は、異なった宗教が同じ空間を共有して祈るといことは奇異な目で見られた。それが世界の宗教が協力して道を拓いてきた。すぐに結論は出なくても、この営みは色々な場でも繰り返していかなくてはならない」と対話の重要性と継続の必要性を強調してシンポジウムを終えた。

平和の祈り式典後、記者会見に臨む主催者代表と海外招請者代表



国内外の仏教徒代表と、キリスト教、イスラム教の代表6名によるシンポジウム。(写真左端はコーディネーターの杉谷義純師)

ボル・ポト派による大虐殺の悲劇を受けたカンボジアのトップ・ボーン仏教会会長は「仏教の慈悲の心を他の人にも分け与える。心を耕し、非暴力の原理によって国の再建に取り組み」と決意を述べた。

カマル・ハッサン氏はイスラムと仏教が近くなれば、アラブと日本も近くなる。仏教はボスニアでイニシアチブ

同日午後には比叡山に会場を移し、それぞれの海外代表者が、世界平和を願う祈りの言葉を唱えたあと、渡邊恵進天

台座主現下が平和祈願文を読み上げた。そして、平和の鐘に合わせ、小林隆彰天台宗国際平和宗教協力協会顧問より、今回の比叡山メッセージが発表された。

比叡山メッセージを発表 暴力を助長する要因であってはならない



比叡山で開催された世界平和祈りの集いに参加した海外代表者

メッセージでは「世界の諸宗教が基本的には平和を志向しながらも、現実はその理念から乖離し、宗派間内部の抗争はもとより、宗派間の紛争が目立ち「紛争の根に宗教がある」とさえ指摘されがちな現象を生んだことは否定できない。とは言え、暴力を抑制する宗教が暴力を助長する要因であっては決してならない」との姿勢が明確に打ち出された。

天台宗と平和の祈り集会

天台宗宗機顧問 杉谷 義純

(3)

一九八七(昭和六十二)年八月四日、漸く真夏の太陽が西に傾き始めた頃、比叡山上は軽い興奮に包まれていた。世界の宗教指導者たちは共に平和を祈り、互いに肩を叩き合っつて平和のために働くことを約した。そして世界に発信された比叡山メッセージは次のように結んでいる。

「平和のために祈るべくここに集ったわれわれの営みが、世界の至るところで繰り返されるために、互いに肩を叩き合っつて平和のために働くことを約した。そして世界に発信された比叡山メッセージは次のように結んでいる。」

宗祖の願いの具現

返され、繰り返げられ、全人類が渴望してやまないこの大いなる平和の賜物が、われわれの時代に与えられんことを切に祈る。

かつては異なる宗教の指導者が空間と時間を共有し、共に祈ることはシンクレティズム(宗教混淆主義)と批判され、西欧などでは考えられないことであった。しかし、共に祈ることはシンクレティズム(宗教混淆主義)と批判され、西欧などでは考えられないことであった。しかし、



1987年の第1回比叡山宗教サミット「平和の祈り」の後で握手し、抱き合う諸宗教代表者

たのである。一方アッシジの祈りはキリスト教中心であったが、比叡山では諸宗教が対等の立場で祈り、対話を行った点でより一層その意義を深めたといえよう。

山田座主はアッシジにおいて諸宗教の指導者を前に「このアッシジの平和の祈りの尊い精神を更に世界に広げるために、比叡山宗教サミットを開催します」とスピーチを行い、アッシジと比叡山が連帯の中にあることを示した。宗教協力による平和への営みが、アッシジが比叡山かと、その先陣を競うことでなく、結果こそ多くの人々に待たれていることを認識しての挨拶であった。

残念ながらローマ教皇の参加は得られなかったが、名代のアリンゼ枢機卿、プロテスタント世界教会協議会のゲレゴリオス議長、趙樸初中国仏教協会会長など錚々たる顔触れが比叡山上に揃った。またカトリックの青少年による世界組織の代表が、十五万名に及ぶ子ども達の平和の署名を携えて参加するなど、サミットの裾野の広がりを感じさせ

た。さらにマスコミの報道も、宗教関係の出来事としては未曾有のものであった。そして比叡山宗教サミットは数々の成果をあげ、歴史に輝かしい、金字塔を打ち立ててその幕を閉じたのであった。

そもそも天台宗が比叡山宗教サミットの推進役となったのは、宗祖伝

力協会を設立し、その成果を未来に引き継ぐべく決意を新たにしたい。以来毎年八月四日比叡山上では、天台宗の主催により平和の祈りの集いが開かれ、本年で十八回を数えた。特に一九九七年には再び日本の宗教界を糾合し、日本宗教代表者会議主催のもと、宗教サミット十周年を第一回を上回る規模で開催することができた。

間もなく二十周年を迎える。数々の批判を乗り越えて継続が力となるためには、初回同様あるいはそれ以上のエネルギーがいる。特に他宗教との間に培われた信頼と連帯の絆を維持していくことは、決して容易なことではない。しかしユネスコ憲章で指摘しているように、戦争が人の心の中で生じる以上、一人ひとりの心の中に平和の砦を築くために、私達は働きかけ続けなければならない。又それが宗徒の責任でもなろうか。

今年の東南寺説法 谷玄昭師が厳修



八月二十一日から二十五日までの五日間、大津市下阪本の東南寺を会場に、戸津説法(東南寺説法)が行われた。今年の説法師は東京教区深大寺住職の谷玄昭大僧正。この戸津説法は、伝教大師が父母への報恩と民衆教化のために、戸津の浜(現在の天津市下阪本)で法華経を講説された故事に由来するもので、谷師は、法華経の開経である無量義経、如来寿命品・観世音菩薩品で知られる法華経八巻や、結経である観普賢経などについて一僧侶として、また布教師としての自らの過去や経験をもとに、やさしく説かれた(写真)。

期間中は、谷師の地元東京や、縁の深い群馬などからも檀信徒が訪れ、連日数多くの聴聞者で同寺は埋め尽くされた。聴聞に訪れた満堂の人々は残暑厳しい中にもかかわらず、熱心に耳を傾けていた。

法華経の内容を平易に講説

北陸教区仏教青年会(中野純賢会長)では、去る、七月三十日、石川県金沢市の西養寺(川崎全寛住職)を会場に、青少年一日研修を開催、地元石川県内の小学生十一名が参加し、仏青会員五名の指導のもと研修に臨んだ。

開会式終了後、仏青会員の説明を真剣な表情で聞き、般若心経の練習や、山家学生式の写経、午後から金沢市内寺院の参拝、止観実習を行った。一つ一つが普段の生活の中では経験できないものばかりで、参加した子ども達は、戸惑いながらも熱心に取り組んでいた。

この研修会は毎年会場を変えて行われており、今回で五回目となった。(報告・中野純賢師)

第5回 北陸教区青少年一日研修会 写経や止観実習など体験



最澄と天台の国宝

天台開宗1200年記念 特別展覧会
Fashi and specimens:
Sachio and
Treasures of Tendai

特徴と魅力 (5)

京都国立博物館 芸室長 久保 智康

IV 天台の密教

天台宗の寺には、本当にいろいろな仏様がまつられています。観音さん、不動さん、聖天さん、弁天さんなどがお馴染みですが、これらはみな、人の願いを直接聞き届けてくれる密教の仏です。

最澄上人と弟子の円仁(慈覚大師)、円珍(智証大師)は、密教の仏について説く経典や姿を描いた図様を中国からたくさん持ち帰りました。のちの学僧らも、法華経などと密教の教えを合わせて矛盾なく説くために、天台独自の解釈を行ったりしたのです。

このような背景から、天台密教の仏の造形は、他に例をみないほど多様なものになりました。

本展覧会では、比叡山横川中堂のご本尊、聖観音菩薩立像をはじめ、滋賀県善水寺の秘仏薬師如来坐像、岐阜県横蔵寺の大日如来坐像、大分県大山寺の普賢延命菩薩坐像など(いずれも重要文化財)、天台密教の名だたる仏像が全国から一堂に集まっています。また「黄不動」の呼び名で



重要文化財 薬師如来坐像 善水寺蔵

有名な京都市曼殊院の不動明王像(国宝)など仏画も多く、元々滋賀県金剛輪寺に伝わった天台系曼荼羅の白眉、金剛界八十一尊曼荼羅図(重要文化財、根津美術館蔵)も関西へ里帰りします。

ところで密教の法会では、たくさんのお仏様を呼んで供養するので、堂内や修法の壇を様々にしつらえなければなりません。本展では、延暦寺で

実際に行われている最も本格的な大壇をそのまま展示します。仏具や供物がいっぱい置かれ、荘厳そのものです。また平安・鎌倉時代に用いられた仏具の数々も紹介します。

きくに耳を傾けつつ、天台法会の雰囲気を感じ取っていただければと思います。
※仏画は、作品保護のため前期・後期で展示替えをしますのでご了承ください。

会期 11月8日(土)~11月20日(日)
会場 京都国立博物館(京都・東山七条)
お問い合わせ 読売新聞大阪本社文化事業部
TEL 06-6366-1809



重要文化財 金剛界八十一尊曼荼羅図 根津美術館蔵

雪が溶けて川となつて

中尊寺貫首 千田 孝信

「僕は母さんのロボットじゃない。無口で生真面目でおとなしいサラリーマンの父親と、中学教師の母さん、母親の前では、つねに「いいー」

さげんなよ。母さん!

母親のひとりっ子として何んもななく育てられた中2の男子が、突然暴れだしたのである。母親は勝ち気で、世間体や他人の目を異常に気にするタイプ。家

「さげんなよ。母さん!」少年は、授業中に思いきり大声を出して叫んだ。とたんに、みんなの色が変わった。気分がスッキリしたという。

ちに、突然のことながら、警察に補導される始末となった。いま少年は、母親と別居した父親が身柄をひきとって、保護観察をうけながら通学している。母親は衝撃にひしがれて、一度も面会に来ていない。



カット・久保直己「フレンズ」(アトリエ・ウーフ)

素晴らしい言葉たち

仕事にはぶら下がるものじゃない。自分が主人公であり、自己を示すのが仕事なのです。その意思表示を上手にするか、下手にするかによって、逆にまた、自己が定まってくるのです。

「大愚のすすめ」 山田恵諦著・大和出版

仕事にぶら下がる、とは言い得て妙ですね。人は何のために仕事をするのか。あらためて問われると少し躊躇してしまいます。勿論、日々の生活を維持するためであり、その上で生きがいとなれば仕事として申し分ありません。今生に生を受けた以上は、意義或る人生にするのが、私たちの務めでしょう。暮らしを支える仕事に生きる目的が寄り添うのは理想です。しかし、現実には、なかなかこうはいきません。やりたいことが職業と一致することはあまり多くないの

天台宗開宗1200年記念 特別展覧会

最澄と天台の国宝 割引引換券

売札窓口はこの部分を切り抜いてご持参下さい。下記割引料金でご入場頂けます。1枚につき1名様限り。他券との併用不可。

10月8日(土)~11月20日(日)
京都国立博物館(京都市東山区)

休館	月曜日、但し祝日は開館し翌日休館
開館	9:30~18:00、金曜は~20:00 (入館は閉館30分前まで)
主催	京都国立博物館、天台宗、比叡山延暦寺、天台宗京都教区、読売新聞大阪本社 他

一般 1300円 → 1200円
高大生 900円 → 800円
小中生 400円 → 300円

事前に10枚以上ご購入の際は、さらにお得な割引価格でご提供いたします。

詳しくは:読売新聞大阪本社文化事業部 (06-6366-1809)